



けんじゃ
賢者のおくりもの

主任司祭 太田 実

アメリカの作家オー・ヘンリーの『賢者のおくりもの』はジムとデラという若い夫婦がクリスマス・プレゼントを贈りあう物語です。

この物語は妻のデラが1ドル87セントのコインを見つめて、ため息をつく場面から始まります。デラとその夫は週8ドルの家具付きアパートに住んでいます。でも、夫の給料が週30ドルから20ドルに減らされ、二人で生きていくのがやっとの生活です。

そんな二人にも自慢できるものが二つありました。ひとつはジムのおじさんからおとうさん、ジムへと受け継がれた金時計です。もうひとつはデラの金色の長い髪でした。

しばらく考えた後、デラは、夫の金時計にふさわしい鎖をクリスマスの贈りものにするため、波打つ豊かな彼女の金髪をかつら屋に20ドルで売ること決心します。そして、21ドルの「すばらしい上品な時計鎖」を買い求めます。

食事の準備をしてジムの帰りを待っているあいだに、ジムが髪を切ってしまった自分のことをどう思うか、デラはだんだん心配になってきました。夫のジムが帰ってきデラを見つめます。

「そうか、君の長い髪はもうないんだ……」

気がぬけたようにジムはつぶやきました。そしてポケットからプレゼントの包みを取り出しデラに渡します。開けて見るとそれは、デラが前から憧れていた、ブロードウェイのショーウィンドウに飾ってあった豊かな金髪によく似合うはずの櫛だったのです。

「まあ！ うれしい！ あのくしね！」

デラは飛び上がって喜び、泣き出しました。そして言いました。

「ジム、わたしの髪って、とっても早く伸びるの」

デラはつぎにジムに金時計の鎖のプレゼントを差し出しました。ジムはデラを抱きしめて、言いました。

「デラ、時計はもうないんだ。君の櫛をかうために、時計を売ってしまったのさ！」

そしてジムは笑って言いました。

「デラ、僕たちのプレゼントはしばらくしまっておこうよ。今の僕たちには立派すぎるからね。さあ、夕食にしよう！ お鍋を火にかけておくれ」

絵本の終わりに、いもようさんは次のようにいいます。

「聖書に出てくる3人の『東方の賢者』は、馬小屋で生まれたばかりの『おさな子』におくりものをささげるためにやってきました。これが、世界で最初のクリスマス・プレゼントということになります。おくりものをおくる人びと、うけとる人びとのなかで、デラとジムのような人こそ『賢者』——

“相手をおもう最高のおくりものをした人——なのです」と、オー・ヘンリーは書いています。

なぜオー・ヘンリーは、ジムとデラを「賢者」と言うのだと思いますか。



七五三祝福式

11月13日(日)10時ミサで七五三の祝福式が行われました。

七五三の祝福を受けた子どもたちがご両親の愛と教会の祈りに包まれて、神の恵みの内に成長しますように。



洗礼おめでとうございます

10月30日(日)

印刷版に掲載しています。
教会入口スタンドにあります。

クリスマスのお知らせ

12月24日(土) PM6:30 クリスマス夜半のミサ
クリスマスパーティーはありません。

12月25日(日) AM 8:00/10:00 クリスマス日中のミサ
PM 5:00 タガログ語クリスマスミサ
PM 7:00 ベトナム語クリスマスミサ

☆24日、25日ミサに来た方全員にお菓子のプレゼントがあります。



新成人祝福

1月1日(日)10時のミサの中で新成人の祝福を行います。
パーティーはありませんが、記念品を用意してお待ちしています。



2022年12月のミサの意向 (11月25日までの申し込み分)

印刷版に掲載しています。
教会入口のスタンドにあります